

## 令和7年度叙勲伝達式

6月5日、リカルド・エステラ・ペティト氏に対する令和7年度叙勲伝達式が執り行われました。今回の叙勲は、同氏が医療分野における長年の献身的な取組を通じ、日本とチリの関係の強化・深化に極めて顕著な貢献を果たしてこられた功績を称えるものです。

リカルド・エステラ・ペティト氏は、国立サン・ボルハ・アリアラン病院チリ・日本消化器病研究所所長として約19年にわたり同研究所を率い、チリと日本の医療協力関係の発展に中心的な役割を果たされました。同氏は、同研究所の設立当初より内科医として在籍し、JICAによる日本人専門家の派遣や、チリ人医師の日本での研修事業などを通じて、日本との協力関係の維持・発展に深く関わってこられました。

2006年に2代目所長に就任して以降は、研究所の組織基盤の強化とともに国際的な医療協力を積極的に推進し、2010年には、大腸がんに関する臨床・科学・学術研究に関する協定を、東京医科歯科大学、チリ保健省およびラス・コンデス病院との間で締結するなど、日本との連携を一層強化されました。この枠組みの下、同研究所は臨床研究機関および内視鏡研修施設として重要な役割を担いました。

また、国内外の医師および医学生の研修を積極的に受け入れ、日本の最先端の内視鏡検査技術や病理診断に関する知見の移転・普及に大きく貢献されました。これらの取組は、消化器疾患の早期診断および治療水準の向上を通じ、チリの医療の質の向上と多くの患者の健康増進に寄与しています。

エステラ氏の長年にわたるこれらの活動は、医療分野における日本・チリ間の信頼と協力関係の強化に大きく貢献するものであり、両国の友好関係を象徴する重要な成果といえます。同氏の多大なご尽力と情熱に、心から敬意を表します。



曾根大使の祝辞



エステラ氏謝辞



勲記の読み上げ



勲章の伝達



集合写真



集合写真